

# ⑥ 次産業化の達人たち

木材の価格暴落、消費者の魚介離れなど苦戦を強いられている一次産業で、6次産業化を展開する事業者たちは、どのように取り組んでいるのか？



林業 | 井口 和司 (いぐち かずし) さん  
[京都府] 井口木材 代表

## 井口木材 6次産業化への道



2009年：ローズカフェを開店

宝牧場より牛肉や豚肉を仕入れ、「木こり牛井」「木こりとんかつ」といった「木こりメニュー」を提供。木や山、木こりの情報を発信する基地としての役割も果たす。



2012年：「知恵の経営」実践モデル企業として京都府から認証を受ける

アドバイザーや商工会担当者からのサポートを受けながら、従業員と共に「知恵の経営報告書2012」を作成。これが6次産業化への足掛かりとなった。

2013年：六次産業化・地産地消法に基づく

総合化事業計画に認定される6次産業化事業として「山への感謝事業」をスタート。「お棺」を製造して販売する事業に取り組む。お棺の中には、木の香りが漂う“おが粉”の布団（特願2013-122080）が敷かれている。この年に京都と大阪で展示会を開催。



自社での加工体制を整え、雇用を創出

関連業者に依頼している加工も、将来的には自社ラインに。「雇用も生まれますし、荒天により山で作業ができない日も、確実な作業の日程が組めます。」と、井口さんは話す。

今後の展望

1990年：林業の世界に

23歳で公務員から親戚が経営する木材会社「丸栄木材」に転職。井口さんの父親もここで勤務。山林技術を学び、大型特殊免許など様々な資格も取得。



1997年1月：独立をして井口木材を設立

この年、2か月で4回の労災事故に遭い3か所骨折。以来、山に入る時には拝むようになり、以後の事故はなくなった。創業年の年商は800万円。

2000年：本格的に木材事業を開始

丸栄木材の廃業に伴い、機械と人材（2名）を引き継ぎ、本格的に木材事業を開始。さらに人員を2名増員して機械化、設備投資を進める。翌年に年商1億円を超える。



2008年：畜舎の床材としての“おが粉”を共同開発

滋賀県朽木にある宝牧場と、牛や豚の畜舎の床材として最適な粒子形状の“おが粉”を共同開発。おが粉は(株)北桑木材センターが生産、井口木材では出来あがったおが粉を運送している。



# 山を守るための6次産業化から生まれた

## 国内・京北産のスギやヒノキを使った

### 木の香りのする「お棺」

山を守るために  
何が出来るか？

京都市右京区の京北地域は、全国でも屈指の林業地で、「北山杉」で知られる磨丸太（みがきまるた）の産地としても有名なところ。井口和司さん（47）は、この地で林業に携わり24年。木材販売事業と山林作業請負事業（昔から言われる「木こり」の仕事）を基幹にしながら、廃棄木材の有効利用を促進するため、牛や豚の畜舎の床材として最適な「おが粉」の開発に取り組んだり、体験林業や人材育成などを行う「井口木こり塾」（非営利のNPO組織）などを運営している。こうした様々な展開を行っているのも、木材需要の喚起や、木の良さや木のぬくもりを消費者に伝えていきたいという考えと、山を守っていききたいという思いから。そしてさらに、木材を有効利用するために井口さんが思いついたのが、節が入った木材を有効利用した「お棺」の製造・販売だった。

木材を有効利用した  
お棺づくり



お棺の製造・販売を思い至った経緯について、井口さんはこう語る。「国内の木材需要がここまで低迷しているにもかかわらず、今のお棺は、95%が中国をはじめ海外から輸入されています。日本人なら日本の山で育った木で作られたお棺で旅立ちたいでしょうし、京都の人の中には、京都産の北山杉のお棺で旅立ちたい、というこだわりもあるかもしれません」。白い無地の棺を基本とする葬儀業界では、井口さんが考案した節の入ったお棺に戸惑う業者もいたそう。しかし、展示会で直接聞く消費者からの声に、井口さんは大きな手応えを感じた。当社は、年間で250本の製造を目指し、今後、委託している加工も自社に切り替えていく。井口木材の6次産業化は、2014年春から本格的にスタートする。

井口さんが考案した「杣人棺（そまびとひつぎ）」は、地元・京北産の木材を有効利用したもの。節有のスギと無地のヒノキを使った2種類のお棺を製造・販売している。



## 京北商工会 経営支援員から見た、井口木材の6次産業化

京北商工会 経営支援員 藤原昌美さん

2012年に井口さんが従業員5人と作成した「知恵の経営報告書2012」、そして2013年の六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定についても、サポートを行ってきた藤原さん。井口さんの6次産業化について、「お棺の製造・販売について相談を持ちかけられ、『とってもいい!』と思いました。絶対に必要なものですし、誰もいつかは入るものですから」と話す。さらに、「井口さんのアイデアや実行に移される行動力は、柔軟で素晴らしいと思います。生産者はリスクを負いやすい面がありますが、井口さんの場合は基幹事業をしっかりとってから6次産業化なので、もし撤退されたとしてもそんなにリスクはありません。ベースがしっかりしていることも大事だと思います。」と話す。



フォレストファーマーズレストラン「ローズカフェ」で料理の腕をふるっているのは井口さんの奥さん・真美さん（左）。店内で使われている木の器は、近隣の木工家具店と共同で作ったもの。天気の良い日はウッドデッキでのランチも気持ちいい。

### 井口木材

京都府京都市右京区京北下弓削町勝山11（ローズカフェ内）  
TEL：075-854-1068

井口木材の6次産業化の取組は、動画インタビュー含め、「第6チャンネル」Webサイトで詳しくご覧いただけます。  
<http://www.6-ch.jp/tatsujin/0057.html>

木のぬくもりを感じることができるカフェです!